

金沢区地区別データ集

# データde金利谷

## DATA de KANAZAWA

### 目次

1. 地区の概況——1
2. 町丁別人口世帯の動向——2
3. 地域の施設等の分布状況——3
4. 年齢別人口と人口移動——4
5. 世帯の状況と居住歴——6
6. 地区の特徴と動向——7



金沢区幸せお届け大使  
ほたんちゃん

令和7年1月発行  
金沢区地域振興課地域力推進担当

## 1. 地区の概況

図1 地区の位置

\*地形図は国土地理院 基盤地図情報(数値標高モデル)5m メッシュにより作成。

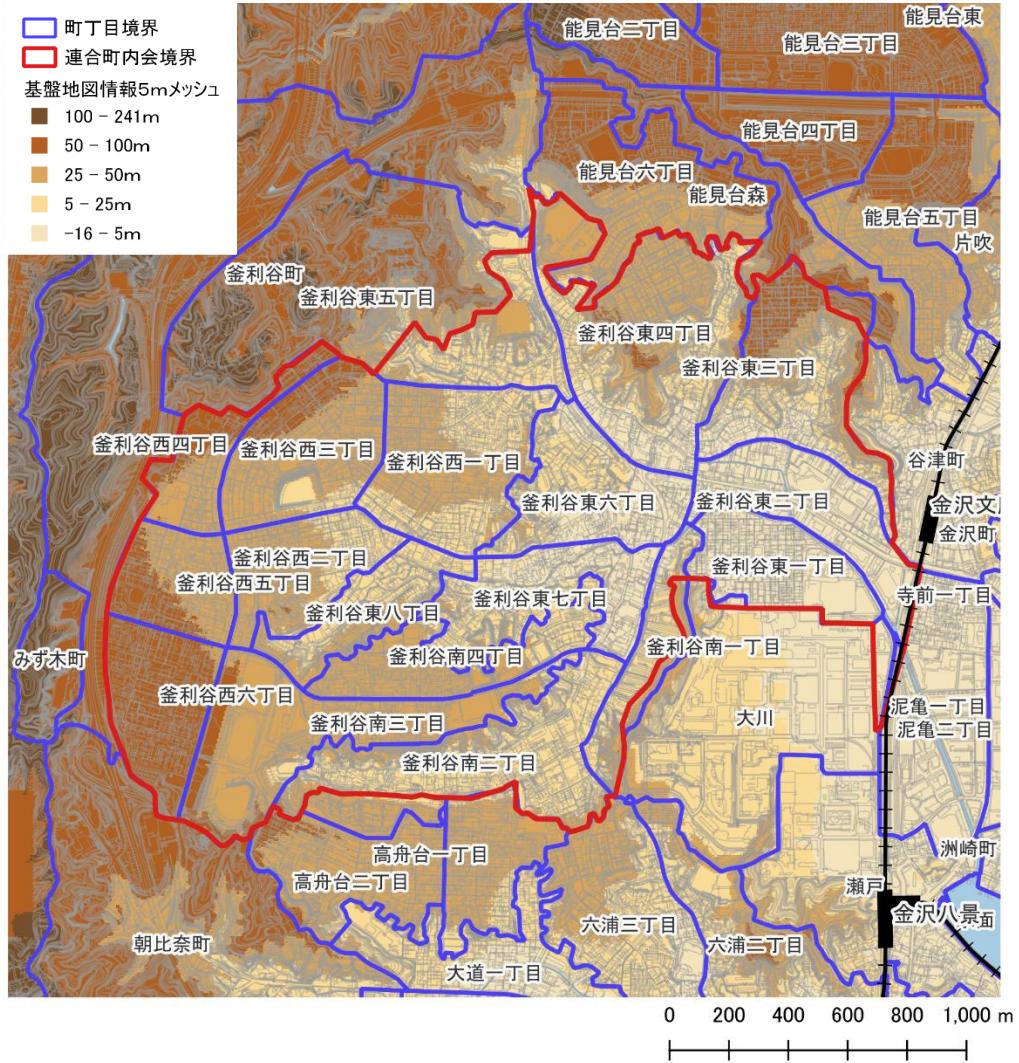


表1 人口、世帯数、年齢別人口等の動向

	平成22年	平成27年	令和2年	平成22～ 27年 増減数	平成27～ 令和2年 増減数	平成27年 比率	令和2年 比率	令和2年 金沢区比率	令和2年 横浜市比率
人口(人)	32,625	31,434	31,238	▲1,191	▲196	100.0	100.0	100.0	100.0
0～14歳(人)	3,964	3,817	3,657	▲147	▲160	12.1	11.7	10.8	11.7
(内0～4歳)(人)	1,309	1,166	1,051	▲143	▲115	3.7	3.4	3.7	4.4
15～64歳人口(人)	20,740	18,664	17,390	▲2,076	▲1,274	59.4	55.7	57.4	61.3
(内20～24歳)(人)	1,846	1,704	1,625	▲142	▲79	5.4	5.2	5.5	5.3
(内25～39歳)(人)	6,295	5,223	4,296	▲1,072	▲927	16.6	13.8	13.6	16.5
65歳以上人口(人)	7,775	8,853	9,580	1,078	727	28.2	30.7	29.5	24.4
(内65～74歳)(人)	4,488	4,873	4,338	385	▲535	15.5	13.9	14.4	11.6
(内75～84歳)(人)	2,447	2,927	3,706	480	779	9.3	11.9	10.5	8.8
(内85歳以上)(人)	840	1,053	1,536	213	483	3.3	4.9	4.5	4.0
世帯数(世帯)	12,983	12,930	13,288	▲53	358	-	-	-	-
平均世帯規模(人／世帯)	2.51	2.43	2.35	-	-	-	-	-	-

\*国勢調査による(各年10月1日現在)。

\*町丁目の境界線が複数の区域にわたる場合は、町丁目の区域を単位としていずれかの区域に含まれるものとして集計しました。

## 2. 町丁別人口世帯の動向 \*「国勢調査」による（各年10月1日現在）。

図2 町丁別人口の動向

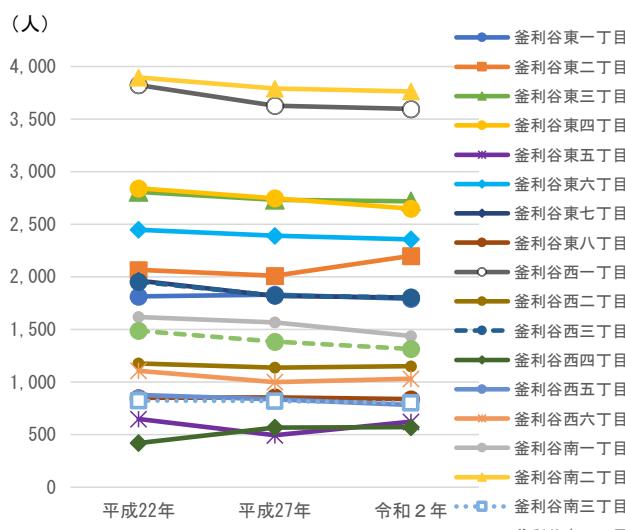


図3 町丁別世帯数の動向

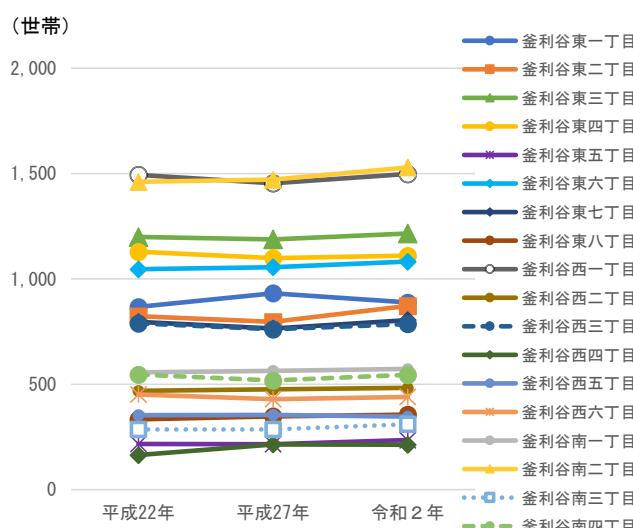
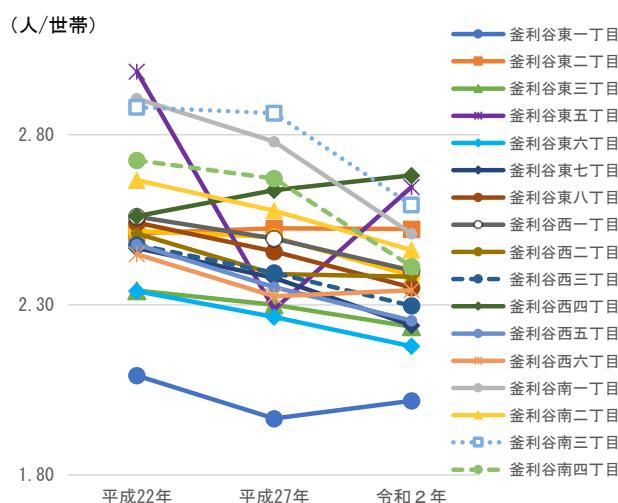


図4 町丁別平均世带規模の動向



釜利谷地区には、令和2年10月現在、31,238人が暮らしています。世帯数は、13,288世帯、平均世帯規模は、2.35人/世帯です。（表1参照）

地区全体の人口としては、平成22～令和2年の期間で減少が続いている。世帯数は平成22～27年は減少しましたが、平成27～令和2年は増加しています。（表1参照）

世帯規模は縮小する傾向が続いており、平成22年の2.51人/世帯から令和2年には2.35人/世帯となっています。（表1参照）

令和2年時点の65歳以上の人口比率（高齢化率）は、30.7%で金沢区全体（29.5%）をわずかに上回っています。平成27年からの5年間で高齢化率は2.5ポイント※上昇しています。

0～14歳の人口（年少人口）、15～64歳の人口（生産年齢人口）は平成22～令和2年で減少が続いている。65歳以上の高齢人口は平成22～令和2年で増加が続いている。65～74歳は平成27～令和2年に減少していますが、75～84歳、85歳以上は平成22～令和2年で増加が続いている。（表1参照）

※金沢区の高齢化の上昇は2.8ポイント、横浜市の高齢化の上昇は1.1ポイントとなっています。

釜利谷地区には、18町丁が含まれています。

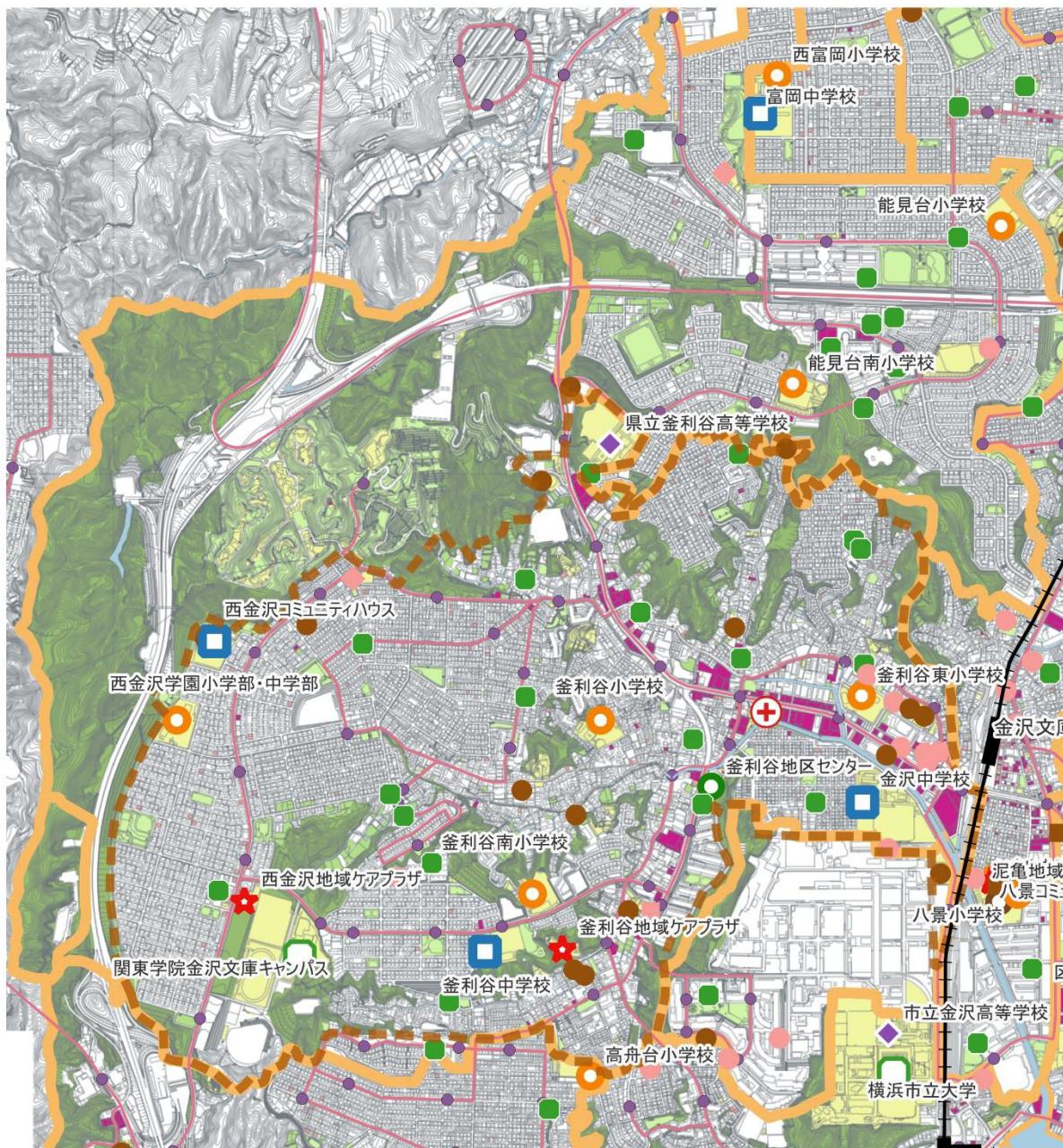
人口、世帯とともに釜利谷西一丁目と釜利谷南二丁目が多い町丁です。この2つの町丁の人口は減少傾向にあり、世帯数は微増しています。釜利谷東二丁目は平成27～令和2年に、釜利谷西四丁目は平成22～27年に人口が増加していますが、他の町丁はほぼ横ばいか微減となっています。世帯数は、釜利谷東一丁目で平成27年に増加が目立ちますが、この他いずれの町丁でもおむね増加もしくは横ばいとなっています。（図2,3参照）

平均世帯規模は、釜利谷東一丁目と釜利谷東五丁目、釜利谷西四丁目をのぞくと、いずれも縮小傾向が続いている。（図4参照）

### 3. 地域の施設等の分布状況

#### 図5 地域の施設等の分布状況

\*土地利用現況、建物用途現況は、横浜市都市計画基礎調査結果による。  
\*施設の位置は、金沢区オープンデータ等による。



#### <凡例>

◆ 幼稚園 - 私学助成園	● 高齢者福祉施設	■ 畑
■ 認定こども園 - 幼保連携型	■ 障がい者福祉施設	■ 山林
● 保育所	★ 地域ケアプラザ	■ 河川・水路
○ 子育て支援拠点	■ 町会自治会館	■ 都市公園
○ 市立小学校	○ 区役所・社会福祉協議会等	■ 文教厚生施設用地
□ 市立中学校	○ コミュニティハウス	■ 店舗併用住宅用地
○ 特別支援学校	○ 地区センター	■ 商業用地
○ 私立小学校	□ その他の区民利用施設	■ 連合町内会境界
■ 私立中学校	● バス停	■ 地区版集計の範囲
● 高等学校	■ バスルート	
○ 大学		0 200 400 600 800 1,000 m
+		【横浜市地形図複製承認番号 令6建都計第9016号】

## 4. 年齢別人口と人口移動

\*年齢別人口は国勢調査による（各年10月1日現在）。  
\*移動人口は平成30～令和5年の人口移動集計結果による。

図6 年齢5歳別の人口の変化

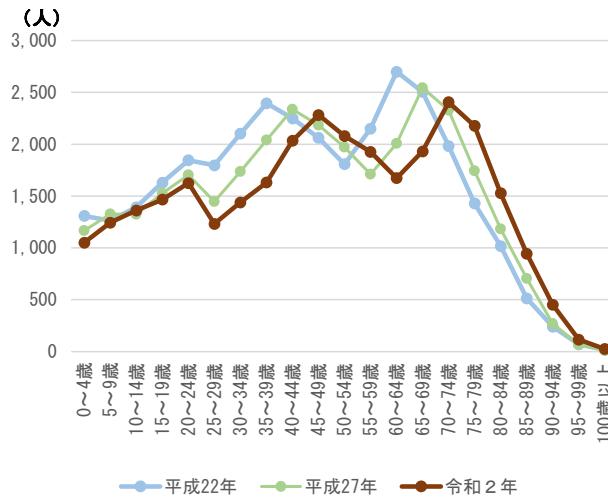


図8 年齢別人口の変化

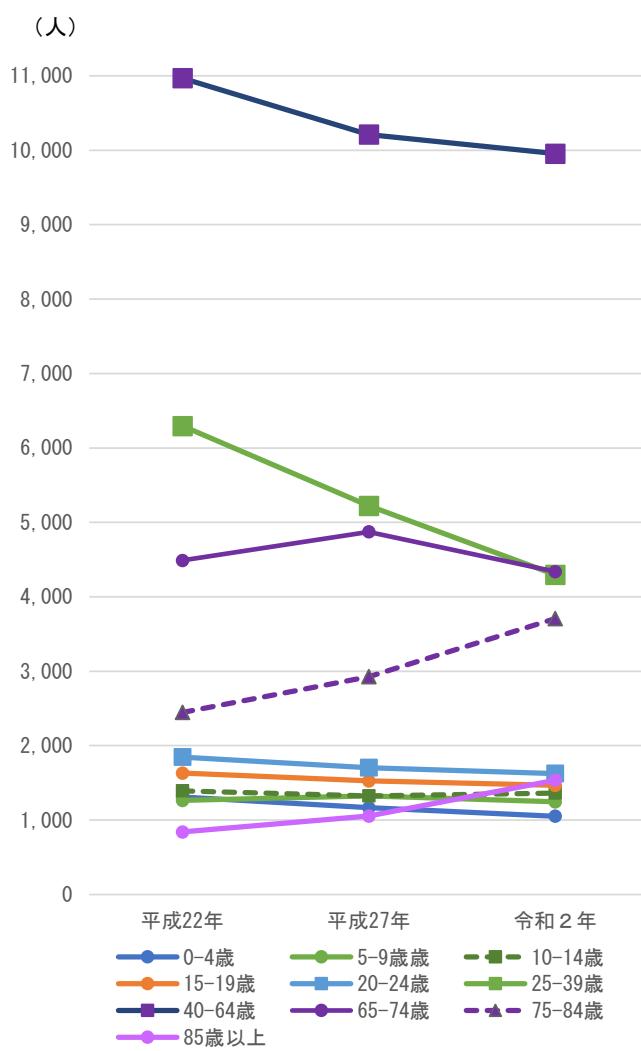
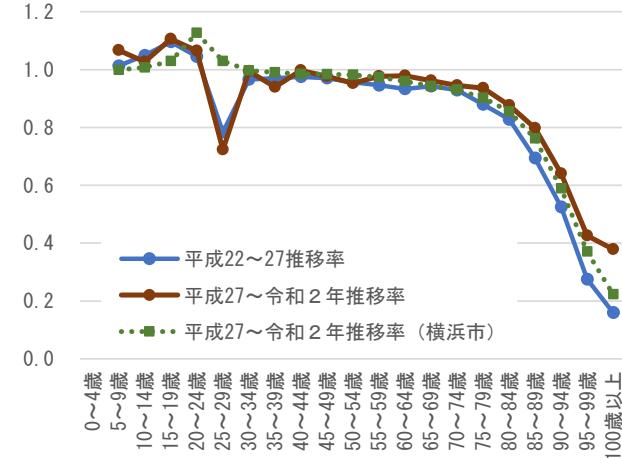


図7 年齢5歳別の人口の推移率



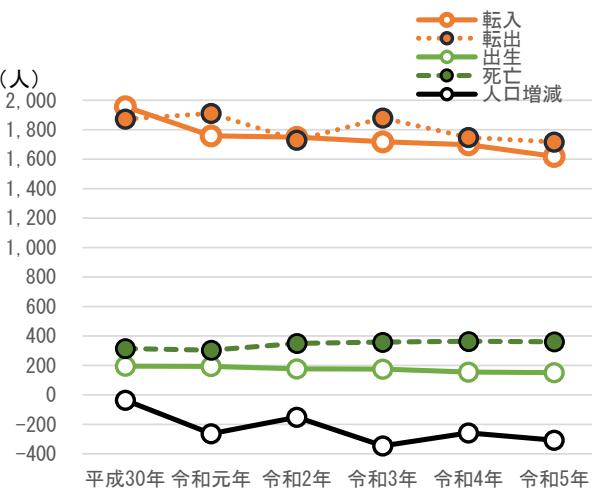
\*推移率：上記の場合は、年齢5歳階級人口の各階級の人口が、死亡、転出入によって5年後に1階級高齢の人口になる割合。

令和2年の釜利谷地区の年齢別人口は、20～24歳、45～49歳、70～74歳の3つの年代が多い年齢構成になっています。20～24歳は平成22年、平成27年、令和2年の3時点で多くなっており、転入が継続していることが分かります。（図6参照）

推移率をみると、平成22～27年、平成27～令和2年ともに5～24歳の年代で1.0を上回って転入が多くなっています。また、平成22～27年、平成27～令和2年ともに25～29歳の転出が目立って多くなっています。（図7参照）

年齢別人口の変化をみると、働き盛り世代の40～64歳と子育て世代である25～39歳は平成22～令和2年で減少が続いている。高齢者人口は、75～84歳、85歳以上の人口の増加傾向が続いている。（図8参照）

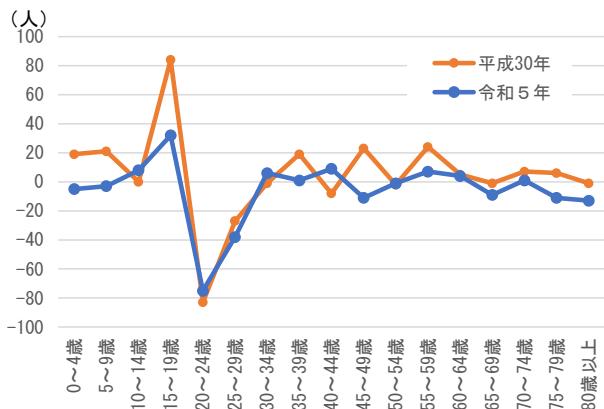
図9 人口移動の動向



平成30年から令和5年の人口移動の動向をみると、各年で増減はありますが、徐々に転出入は減少傾向にあり、平成30年から令和3年は1,800～2,000人前後の転出入が、令和4年以降は1,600～1,800人前後になっています。令和元年と令和3～5年は転出が転入を上回っています。(図9参照)

平成30年と令和5年の年齢5歳別社会移動人口の動向をみると、ともに15～19歳の転入が最も多く、20～24歳の減少が最も多くなる傾向が見られます。(図10参照)

図10 年齢5歳別社会移動人口の動向



## 5. 世帯の状況と居住歴

\*各年「国勢調査」結果による(各年10月1日現在)。

図11 6歳未満の子どもがいる世帯の動向

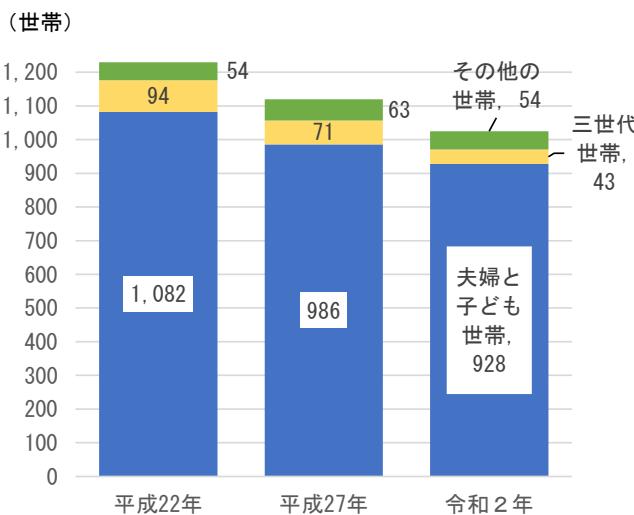


図12 65歳以上の高齢者がいる世帯の動向

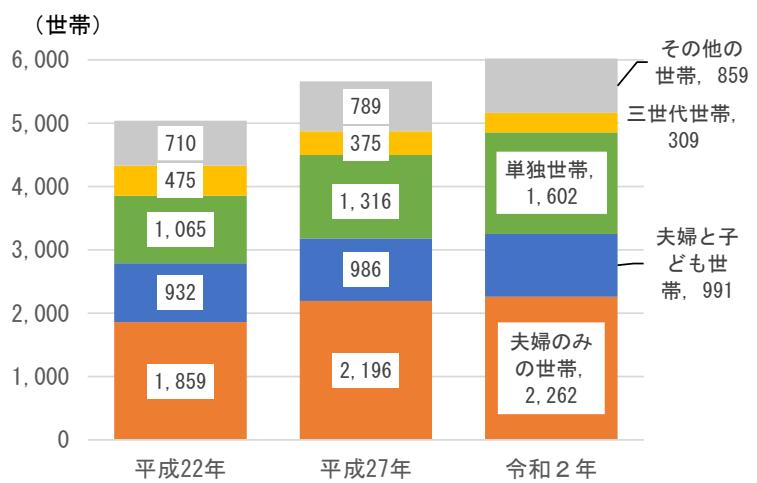


図13 住宅の所有関係別の世帯の動向

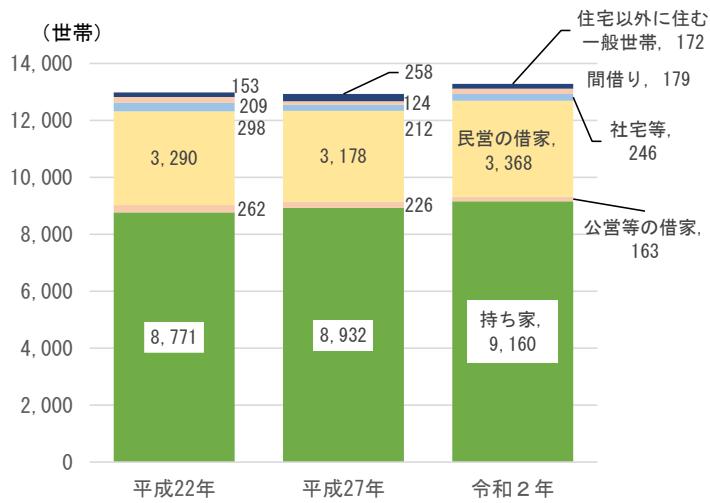


図14 住宅の建て方別の世帯の割合 (R2)

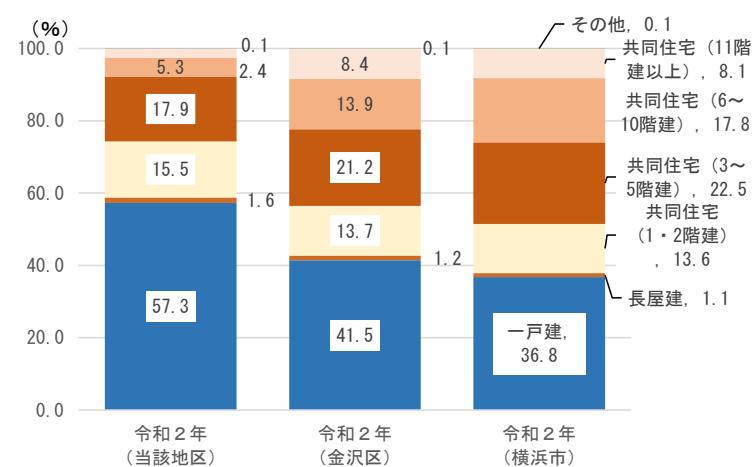


図15 規模別世帯の動向

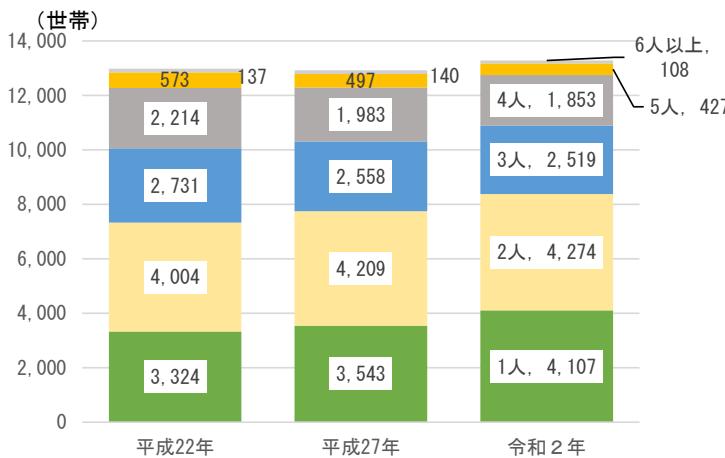
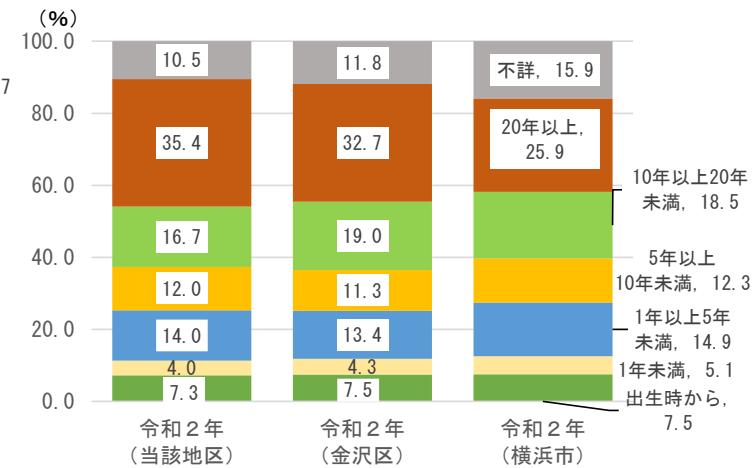


図16 居住歴別人口の割合 (R2)



## 6. 地区の特徴と動向

釜利谷地区は金沢文庫駅の西側に広がる住宅と金沢区南西部の丘の上に開発された住宅地を中心の地区です。

6歳未満の子どものいる世帯は、平成22～令和2年の期間で減少が続いています。平成22年の1,230世帯が、令和2年には1,025世帯となりました。令和2年の6歳未満の子どものいる世帯のうち90.5%が核家族になっています。(図11参照)

65歳以上の高齢者のいる世帯は増加傾向にあります。令和2年の65歳以上の高齢者のいる世帯6,023世帯のうち、37.6%が夫婦のみの世帯、26.6%が高齢者の単独世帯です。これら高齢者だけで暮らしている世帯は、高齢者のいる世帯全体の64.2%を占めています。(図12参照)

住宅の所有関係別では、令和2年は持ち家に住んでいる世帯が9,160世帯で最も多く、次いで多いのは民営の借家に住む世帯で3,368世帯あります。持ち家に住む世帯、民営の借家に住む世帯とともに増加傾向にあります。(図13参照)

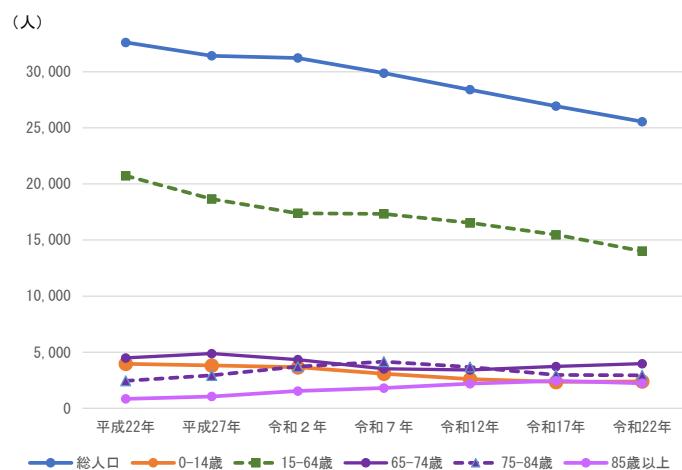
令和2年の住宅の建て方別の世帯の割合をみると、一戸建の住宅が57.3%と最も多く、一戸建この割合は金沢区全体(41.5%)と比べると15.8ポイント上回っており、一戸建の住宅を中心の地区であることが分かります。(図14参照)

釜利谷地区の世帯人員の推移をみると、「1人」は平成22年の3,324世帯から令和2年の4,107世帯に増加し、一人暮らし世帯が増加しています。(図15参照)

人口全体の動向と推計をみると、平成22～令和2年の実績値は減少傾向にあり、令和7年以降も減少傾向が続くものと推計されています。(図17参照)

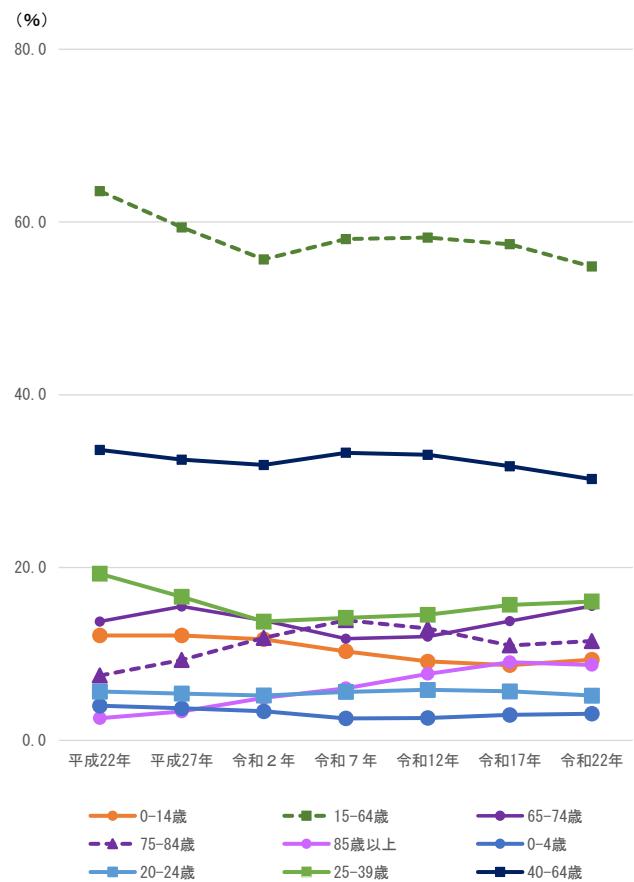
今後は生産年齢人口が減少し、後期高齢者、特に85歳以上の人ロが増加し続けるなど、人口構造に変化が見られると推計されます。(図17,18参照)

図17 人口の動向と推計



※平成22年～令和2年は国勢調査の実績値。令和7年以降は、国土技術政策総合研究所による推計値(国勢調査を用いたコーホート変化率法)。

図18 人口の動向と推計 年齢別比率



※平成22年～令和2年は国勢調査の実績値。令和7年以降は、国土技術政策総合研究所による推計値(国勢調査を用いたコーホート変化率法)。